“たましい”をゆさぶる子どもの本の世界 110

飫肥　糺（批評家・エッセイスト）

豊かな心の動きがゆきかう地域に生きる子どもの戸外遊び

『かんけり』（アリス館）

都心から40キロ。房総丘陵に広がる街に住むぼくの日課はウォーキング。朝に夕に足の向くまま1時間を歩く。主なコースは市街地からつらなる緑道で田園地帯から住宅地域まで全長3・6キロを貫いている。樹木が多く春夏秋冬で表情を変える風趣は歩くにはあきかなかである。随所に遊具や体操具が設置されているのは今風だろうか。

この街も少子高齢社会にすっかり変容した。それでも、昼下がりから夕暮れ時の緑道には親子連れや学童らがつどい遊ぶ。理由などないが、ぼくはほっとする。戸外に遊ぶ子どもたちを目にするのは快いではないか。何とはなしに活力をもらえるように思う。

神無月某日、神田神保町の書店で絵本『かんけり』に出逢う。目を奪ったのは絵本判型いっぱいに大きく描かれた少女のふくらはぎ下部から右足首で、空缶の上を踏んでいる。遠景の草むらから階段下からと真剣な目つきで少女の足をうかがう学童ふたり。古びたデザインの空缶はみかんの缶詰のようだ。いわずもがな、懐かしいあのかんけりではないか。

戦後の余燼がくすぶる昭和20年代から30年代、経済的にはないないづくしの時代であったが、存外、子どもたちは遊ぶ（空間）も（時間）も「仲間」も豊富に持っていた。終戦期生まれ、団塊世代がそのたくさんの仲間がつどい10人前後の集団で遊んだ。遊びのほとんど年長者から代々にわたり伝わり教えられた手づくりでお金のかからない遊び。空缶ひとつあれば年中楽しめるかけりは指折りの屋外遊びだったろう。

絵本『かんけり』の主人公は引込み思案のちえちゃんと元気いっぱいで勝ち気なりえちゃん。物語は、ある日、学年ちがいの近所の学童仲間7人で遊んだかけりの顛末である。

舞台はちいさな神社の境内。鬼になったゆうたくんが30数えあいだに6人があちらこちらと隠れる。そして鬼のゆうたくんが「たかしくん、みっけ」みきちゃん、みっけ」と大声を発しながら缶を踏むと「つかまえた」となる。どんどん仲間たちが鬼につかまっていく。つかまった仲間を助けるために残りの者は、鬼が缶から離れるあいだに缶をけりとばさなければならない。強気のりえちゃんも「みんなをたすけにいく」と缶に向かったが鬼につかまってしまう。

最後に残ったのは、ちえちゃんとりえちゃんだけ、もともと、ちえちゃんはかんけりは苦手、缶をけるのがとてもこわかった。だから、かんけりをしてもだれも助けたことがない。さあ、どうする、ちえちゃん……。

学校でも近所でも、引込み思案のちえちゃんをりえちゃんはいつも助けてくれた。そのりえちゃんが「た・す・け・て」と手をふっているようだ。さあ、どうする、どうする、ちえちゃん。

描かれた少女のふくらはぎ下部から右足首で、空缶の上を踏んでいる。遠景の草むらから階段下からと真剣な目つきで少女の足をうかがう学童ふたり。古びたデザインの空缶はみかんの缶詰のようだ。いわずもがな、懐かしいあのかんけりではないか。

戦後の余燼がくすぶる昭和20年代から30年代、経済的にはないないづくしの時代であったが、存外、子どもたちは遊ぶ（空間）も（時間）も「仲間」も豊富に持っていた。終戦期生まれ、団塊世代がそのたくさんの仲間がつどい10人前後の集団で遊んだ。遊びのほとんど年長者から代々にわたり伝わり教えられた手づくりでお金のかからない遊び。空缶ひとつあれば年中楽しめるかけりは指折りの屋外遊びだったろう。

絵本『かんけり』の主人公は引込み思案のちえちゃんと元気いっぱいで勝ち気なりえちゃん。物語は、ある日、学年ちがいの近所の学童仲間7人で遊んだかけりの顛末である。

舞台はちいさな神社の境内。鬼になったゆうたくんが30数えあいだに6人があちらこちらと隠れる。そして鬼のゆうたくんが「たかしくん、みっけ」みきちゃん、みっけ」と大声を発しながら缶を踏むと「つかまえた」となる。どんどん仲間たちが鬼につかまっていく。つかまった仲間を助けるために残りの者は、鬼が缶から離れるあいだに缶をけりとばさなければならない。強気のりえちゃんも「みんなをたすけにいく」と缶に向かったが鬼につかまってしまう。

最後に残ったのは、ちえちゃんとりえちゃんだけ、もともと、ちえちゃんはかんけりは苦手、缶をけるのがとてもこわかった。だから、かんけりをしてもだれも助けたことがない。さあ、どうする、ちえちゃん……。

学校でも近所でも、引込み思案のちえちゃんをりえちゃんはいつも助けてくれた。そのりえちゃんが「た・す・け・て」と手をふっているようだ。さあ、どうする、どうする、ちえちゃん。

「よし！」と自分に声をかけ、せいいっぱいの勇気をふりしぼるちえちゃん。目をつぶり走り出した。こうして、ちえちゃんは、「わたしが、」「わたしが…」「わたしが、」「かんを」「ける！」

と缶を天高くけりあげたのだった。この一連の展開を作者は見開き12ページにわたり描き出す。迫力たっぷりの絵づくりで動画のように演出する。感動的な場面展開ではないか。

物語を活き活きと動かすメリハリの利いた起承転結、お話を見返しを繰から起こし4頁目になって原題字が出てくる特異な構成を「おや」と感じさせて面白い。

この作品を作者は郷愁で描いたのか。現在にまだ残る子どもたちの遊戯として創作したのか。どちらにしても、子どもの戸外遊びの豊かな心が描かれた良質な作品になっている。

（おび・ただす）

『かんけり』
石川えりこ／さく、アリス館

絵本フォーラム
子育て支援ネットワーク
2018年11月10日　第121号
2003年4月26日登録商標第4806413号（第類別1）・第2703号（毎月10日発行・郵便料込み）
発行所　NPO法人「絵本で子育て」センター
芦屋 〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405
TEL 0797-38-7516 FAX 0797-38-7939
https://www.ehondekosodate.com/　E-mail info@ehondekosodate.com
郵便振替口座 00900-9-191667
©NPO法人「絵本で子育て」センター2018

子ども歳時記

子どもの心に消えない星を

中村　史（絵本講師）

この季節には、クリスマスを待ち始めたときから始まります。世界には、さまざまなクリスマス前の習慣がありますが、キリスト教徒でない私にそのことを教えてくれるのは、いつも本でした。

たくさんのクリスマス絵本のなかでも、とりわけ印象的なのが『クリスマスまであと九日　セシのポサダの日』（エッツ&ラバスティダ／作、たなべいすず／訳、冨山房）です。

この絵本には、日本ではあまり知られていないメキシコのクリスマスの風習が描かれています。主人公はセシという幼稚園に通う女の子です。家族とお手伝いさんにかわいがられ、おだやかな毎日を過ごしているセシに、その年特別なことがおきます。今年はポサダに出られるというのです。クリスマス前の九日間、毎晩異なる家で行われるポサダは子どもたちの大きな楽しみですが、早く寝かされる幼い子は出られません。セシにとってポサダに出られるということは、自分だけのピニャタを持てるということです。それがどんなにわくわくすることか、セシの母目を丁寧にすくって描き出す作者の絵と言葉が、私たちに十分に伝えてくれます。

ポサダの晩、素焼きの壺に紙を貼り付けて動物などの形をつけたピニャタにおもちゃや菓子や果物がいっぱい詰められ、紐に吊るされます。そさな感受性の強い女の子、セシが最後にもらった自分だけの星、誰にも壊されないように、自分だけの特別な何かを持つということは、自分の存在が他の誰とも異なる意味のあるものだと感じられることではないでしょうか。小

[クリスマスまであと九日] 第1頁

さいセシのなんと愛おしいことでしょう。

自分だけの特別な何かを持つということは、自分の存在が他の誰とも異なる意味のあるものだと感じられることではないでしょうか。小さな感受性の強い女の子、セシが最後にもらった自分だけの星、誰にも壊されないように、文字通り彼女の一生を照らす星です。セシの物語は、世界中の子どもたちの心に、自分だけの消えない星を育てるべく日々奮闘している私たち大人のそれぞれの星も、ひときわ強く輝くように思えるのです。

（ながもり・ふみ）

意気揚々と読み聞かせをスタート

久嶋　志帆（東京都）

幼い頃、絵本がすらりと並んだ家の本棚から選んだ本を、母が読んでくれる温かな時間を過ごした経験から、私もー と奮い起き、自分が良いと思う絵本を沢山用意して出産に臨みました。声優を生業としている手前、読む事には自信があり、意気揚々と息子相手に読み聞かせをスタートしたのですが……。この愛すべき宇宙人相手に悪戦苦闘！

長男が生まれる前から、我が子が生まれる日、保育園から家に帰る車の中、夕焼けがとてもきれいで「きれいなタ焼けだね」と私が言うと、娘が言う一言「わぁ！きれい！あのとんからとんの絵本のお空みたい！」と言って絵本の中で主人公の男の子が布を織る時に歌う歌を息子と一緒に歌いだしたのです。目の前の景色から好きな絵本を思い出し、言葉までも引き出しているのですから、これほどまでに絵本の世界が子どもたちの心の中に沁みわたっているのかと驚きました。重版未定になってしまい手元に絵本はありませんが、『空のおくりもの』を通して得た子どもとの共通体験は心の宝物です。

（かとう・なおこ）

絵本の世界が甦るとき

加藤　智子（大阪府）

長女が3歳くらいから少しずつ読み聞かせをして今年で約7年目です。その間に息子も生まれ、読む順番でケンカになります。その度にいい策はないかと頭をひねりながら、ふたりに絵本を読んできました。今年息子が小学校に入学し、ふたりとも小学生になりましたが、絵本の読み聞かせは継続中。娘は自分が読んでいる本にはまっている時は「今日は絵本はいい！」と言うようになり、ちょっと切ないけれど成長を感じています。

毎晩絵本を読んでいるので子どもとの思い出の絵本はたくさんありますが、この『空のおくりもの』は特別です。ふたりが保育園に通っていた頃、図書館で借りたのが初めての出会い。アンティーク調で丸みを帯びた優しい絵と詩的で耳に心地よい言葉に、子どもたちはこの絵本が大好きになりました。

ある日、保育園から家に帰る車の中、夕焼けが私の読み手としての経験は全く役に立たず、横紙の日々が始まりました。そんな時、ブックスタートで貰った冊子に書いてあった、「赤ちゃんにとって、絵本はおもちゃです」という一文に、ハッとさせられました。生まれて間もない赤ちゃんに、私は何を期待していたんだろう……。

それからは、子どもに合わせる事を心掛けました。記憶の底にある母の節らな いい唱を手本にし、子どもが聞きたい部分だけを聞きたいだけ読み、飽き、破る、投げるも繰り止めません。入所した保育園で子どものお話が決まったときから、絵本講師として呼んでいただくからには、絵本で親子をつなぐきっかけ作りを何かしたいと考えていました。お家でも絵本の話をしたり、読み聞かせをしたり、そういった絵本のある暮らしにつながるような種まきができるといいなと。

そこで考えついたのが、『ぐるんぱタイム』です。その日「ぐるんぱ」で読んだ絵本のラインナップ、作者の紹介、月々のテーマに沿ったおすすめ絵本の紹介など、年少児でも、読んでもらった絵本がパッとひと目でわかるように、絵や写真が中心のお便りを、毎回持って帰ってもらうことにしました。園からのお便りは電子化されているのですが、子どもたちからお家の方にお便りを手渡してもらうことに意味があると思い、紙媒体にこだわって配っていただいています。子どもたちの反応やつぶやきも、お家の方にその日にお話ししたいと思っています。

「ぐるんぱ先生」として、これから私になにができるか、園の活動に結びつく旬の絵本を選び、読むことで、園生活がより豊かになるといいなと思います。子どもたちや先生方に心待ちにしてもらえる「ぐるんぱタイム」を目指したいです。また、「ぐるんぱタイム」が、親子のコミュニケーションのきっかけになり、お家での読み聞かせが少しでも増えるように、お便り作りにも毎回工夫を凝らしていきたいと思います。

（おおにし・まき）

父と子の絵本タイム

佐々木　有希子（大阪府）

我が家の絵本の読み聞かせは妊娠中に始まりました。双子の妊娠が分かって数ケ月したある日、突然夫が私のお腹に向かって絵本を読み始めたのです。

「元々私は絵本が好きで結婚当初から絵本は何冊もあったのですが、夫が手に取ったことはありませんでした。そんな夫の読み方があまりにも下手で私は笑いをこらえるのに必死。でも、その日から出産のために入院するまで毎日絵本を読んでくれたので、生まれる頃にはとても上手に読み聞かせができるようになっていました。

生まれて2ケ月の頃からは私も読み聞かせを始めました。初めて子どものために買ったのは長新太さんの『わんわんにゃーにゃー』と『ブファー』（ともに福音館書店）でした。その頃から、寝る前の読み聞かせはほとんど欠かさず今も続いています。今は小4の息子たちは大抵とってポサダに出られるということは、自分だけのピニャタを持てるということです。それがどんなにわくわくすることか、セシの母目を丁寧にすくって描き出す作者の絵と言葉が、私たちに十分に伝えてくれます。

ポサダの晩、素焼きの壺に紙を貼り付けて動物などの形をつけたピニャタにおもちゃや菓子や果物がいっぱい詰められ、紐に吊るされます。そさな感受性の強い女の子、セシが最後にもらった自分だけの星、誰にも壊されないように、文字通り彼女の一生を照らす星です。セシの物語は、世界中の子どもたちの心に、自分だけの消えない星を育てるべく日々奮闘している私たち大人のそれぞれの星も、ひときわ強く輝くように思えるのです。

（ながもり・ふみ）

[クリスマスまであと九日] 第1頁

絵本講師の発言席

「ぐるんぱ先生」として……

大西　真葵（絵本講師）

その園で、4月から始まったのが「ぐるんぱタイム」です。「ぐるんぱ」と聞いて思い出すのは、『ぐるんぱのようちえん』（西内ミナミ／作、堀内誠一／絵、福音館書店）です。『ぐるんぱのようちえん』のように、楽しい時間になるようにと先生方の願いを込めて、先生方が名付けられた月一回の読み聞かせの時間。そこへご縁があって絵本講師として呼んでいただき、園児にお話しをすることになりました。

4月、初めての「ぐるんぱタイム」では、新しく始まった読み聞かせの時間に親しんでもらえるようにと、園児たちに「ぐるんぱのようちえん」を読みました。子どもたちの食い入るような真剣な表情、ぐるんぱ先生と一緒になって、ふんばりしたり嬉しそうにしたり、ころころと変わっていく表情。子どもたちが見せてくれる生き生きした表情や素直なつぶやきに、「絵本って楽しい！絵本ってすごい！」と実感したひと時になりました。

3月までは娘が在園していたので、私を見るなり「○○ちゃん（娘の名前）のお母さーん！」と話しかけてくれる子どもがたくさん。ところが、5月のぐるんぱ先生と呼んでくれる子どもが現れて感激しました。同時に、子どもたちから見れば、私は絵本の先生なのだと、骨盤がピンと伸びるような緊張と責任を感じました。

お話が決まったときから、絵本講師として呼んでいただくからには、絵本で親子をつなぐきっかけ作りを何かしたいと考えていました。お家でも絵本の話をしたり、読み聞かせをしたり、そういった絵本のある暮らしにつながるような種まきができるといいなと。

そこで考えついたのが、『ぐるんぱタイム』です。その日「ぐるんぱ」で読んだ絵本のラインナップ、作者の紹介、月々のテーマに沿ったおすすめ絵本の紹介など、年少児でも、読んでもらった絵本がパッとひと目でわかるように、絵や写真が中心のお便りを、毎回持って帰ってもらうことにしました。園からのお便りは電子化されているのですが、子どもたちからお家の方にお便りを手渡してもらうことに意味があると思い、紙媒体にこだわって配っていただいています。子どもたちの反応やつぶやきも、お家の方にその日にお話ししたいと思っています。

「ぐるんぱ先生」として、これから私になにができるか、園の活動に結びつく旬の絵本を選び、読むことで、園生活がより豊かになるといいなと思います。子どもたちや先生方に心待ちにしてもらえる「ぐるんぱタイム」を目指したいです。また、「ぐるんぱタイム」が、親子のコミュニケーションのきっかけになり、お家での読み聞かせが少しでも増えるように、お便り作りにも毎回工夫を凝らしていきたいと思います。

（おおにし・まき）

ジェリー・マーティン　英訳
えいごのじかん2 全6巻
分売可：各巻定価（本体1,800円+税）
・What's For Snack Today?　きょうの おやつは なんだろう？
・Good Morning, Hedgehog!　おはよう はりねずみくん
・Pooh　うんこ
・Clouds,Clouds,Clouds,Where Are You From?　くもは どこから？
・The Bear Counting Song　まめの かぞえうた
・Same Mice　おなじ のねずみ
英語の音声聞かせに最適なバイリンガルの絵本。
ネイティブスピーカーによる英文朗読ダウンロードサービス付き。
すずき出版 TEL.03-3845-6013 FAX.03-3845-6015

おじいちゃん
梅田俊作　梅田佳子 作・絵
定価：本体1,300円+税
死ぬってどういうこと？
おじいちゃんが死んだ。家の中でも、家の外でも、おじいちゃんをこんなに近く感じる感じるのに、もういないのか？男の子が思い出の場所までたどりついた時、奇跡が――。大好きな人の死を男の子が受けとめ、前を向いて歩みだすまでを描いた絵本。
ポプラ社
〒160-8565東京都新宿区大京町22-1
TEL03（3357）2212 FAX03（3359）2359

森のおはなし
森のおはなし
時がたつこと、こころに残るものがたり。
しみじみとこころにしみる ものがたり。
幸せのコロリーン絵本。
マーク・マーティン＝作　おびただす＝訳
定価：本体1,500円+税
ISBN978-4-89737-997-5
六耀社
〒135-0091
東京都港区台場2-3-1トレードピア お台場19階
T:03-6426-0131（代）F:03-6426-0143
www.rikuyosha.co.jp

抱きしめてあげて
育てなおしの心育て
渡辺久子 著　いわさきちひろ 画
定価 本体1,400円+税
幼児期から思春期にかけての育ちの大切なことは「思い通じる力」「行動のよい子をつくること」ではなく、次の社会で「仲間と仲良くやっていける社会人」や「思いや家族を築き、よい子育てのできる親」を育てることという小児科医でもある著者がその方法などを26の視点を通して説明します！
太郎出版 〒113-0033 東京都文京区本郷6-1-14 TEL.03-3814-0471 FAX.03-3814-0566

シリーズ8年ぶりの新刊！
くろくんとちいさいしろくん
なかや みわ さく・え
定価 本体1,200円+税
くろくんたちは、迷子になったしろくんに出会います。でも、しろくんの仲間が見つかりません。親切にしてくれたくろくんたち。くろくんは出発前に何かをかいていきました。絵の具を塗ると、そこに浮かび上がったのは……！
童心社 〒112-0011 東京都文京区千石4-4-6 TEL.03-5976-4181 FAX.03-5976-1076

現代の子育て環境107　わたしの絵本体験記

原稿募集

絵本フォーラムでは、次の原稿を募集しています。

わたしの絵本体験記

子育ての中で体験した絵本のエピソード、読み聞かせや感じたこと、伝えたいこと

600字程度にまとめて、住所、氏名、電話番号、年齢、職業、家族を添えて絵本フォーラム編集室までお送りください。採用された方には粗品を進呈し、ホームページにも掲載させていただきます。

絵本フォーラム編集室

子育ての現場から 7　ネット依存対策の提案

川口　結実

若年層のネット依存が深刻な社会問題となっています。厚生労働省の調査によると、日本国内でインターネット依存の中高生は推計93万人にもなるそうです(2017年度)。精神的な問題だけでなく、犯罪にまきこまれるケースもあるため、ネットは便利なツールである反面、使い方次第では凶器にもなります。

お子さんのいらっしゃるご家庭では、わが子はネット依存については大丈夫なんだろうか？この先ネット依存にならないためにはどうしたらいいのか？など、大なり小なりネット依存による精神的な問題について気にされていると思います。

私も、つい最近まで15歳の長女がスマートフォンを長時間使うことが気になっていました。1歳を迎えた頃から、絵本で子育て中の高校生の娘と、中学入学前の春休みからスマートフォンを使い始めました。目に日に精神的な問題が出てきて、娘にまきこまれるケースもあるとの事。ネットは便利なツールであるが、使い方次第では凶器にもなります。

お子さんのいらっしゃるご家庭では、わが子はネット依存については大丈夫なんだろうか？この先ネット依存にならないためにはどうしたらいいのか？など、大なり小なりネット依存による精神的な問題について気にされている親子のいらっしゃいます。ネットのことでもトラブルが多く、中学生になってからさまざまな悩みを抱えている親子のいらっしゃいます。ネットにまつわる事件が頻発がすすめました。

娘のケガをあまり、娘のリストカットを目撃したり、注意することが増えました。ネットのことでも、ネットに夢中になっては外でも